



北島アンダーグラウンド・ナイト 遠藤ミチロウ★福島復興祈願北島公演

新作映画【SHIDAMYOJIN しだみょうじん】上映+ライブ

12月17日(土) 18時半～

会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●前売/3000円(当日3500円)

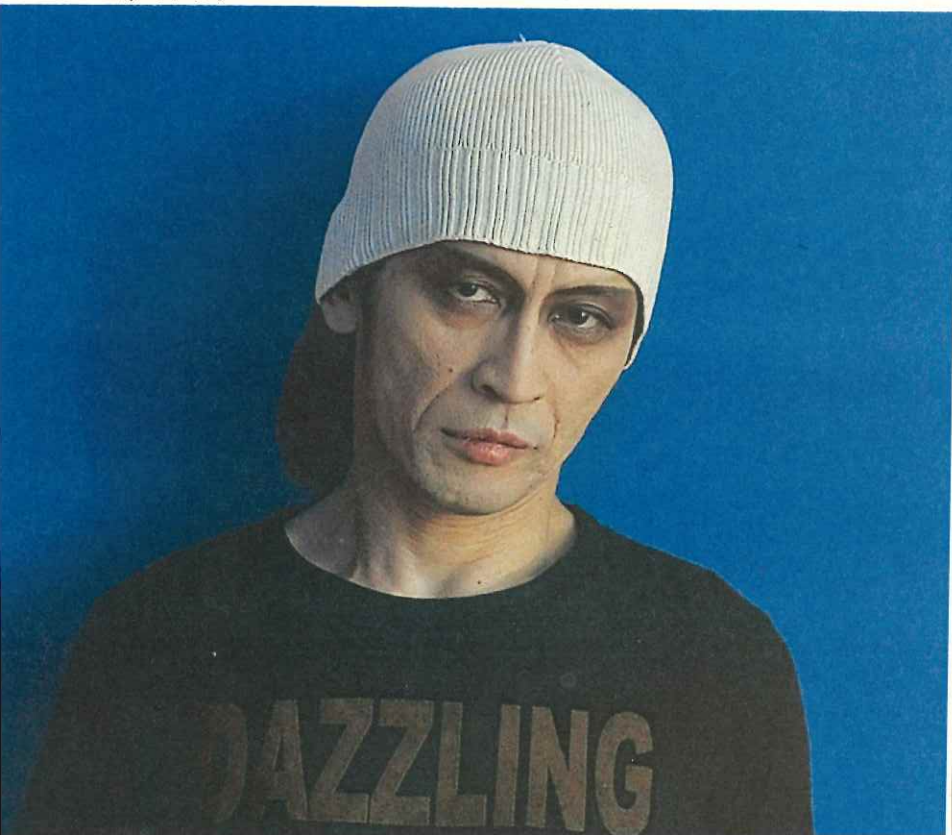
出演●遠藤ミチロウ

主催●遠藤ミチロウ★ライブ実行委員会(☎088・698・1100)

内容▼新作映画「SHIDAMYOJIN(しだみょうじん)」(遠藤ミチロウ&小沢和史監督作品、2016年、64分)上映+遠藤ミチロウ・ライブ(90分)

主催●遠藤ミチロウ★ライブ実行委員会(小西☎088・698・2946)

■遠藤ミチロウ、通算9度目の北島町登場■映画は、遠藤氏が民謡パンク・バンドを率いて福島の被災地・いわき市志田名(しだみょう)地区で三十年以上途絶えていた盆踊りを地域のお年寄りたちと共に復活・成功させ、さらに祭りから祭りへと駆け抜ける姿を描いたドキュメンタリー作品■映画上映の後、本人生出演でライブを行なう■福島県二本松市出身の遠藤氏は、3・11大震災後、和合亮一氏や大友良英氏や坂本龍一氏たちと《プロジェクト・フクシマ》を発足させ、被災地支援に力を注ぐ■2014年、膠原病発症。入院治療を経て、薬の投与を受けつつライブ活動再開。2015年4月、CD「FUKUSHIMA」、著書『膠原病院』発表。同年12月には自身の2つのバンド、羊齒明神とTHE ENDのCDを同時発売するなど、不屈の闘志で甦ったその雄姿は感動を与え続けている。



北島迷店街ポスター展

12月18日(日)～22日(木)

2017年1月17日(火)～31日(火)

10時～18時

*12月19日(月)、1月19日(第3木)、1月23日(月)、30日(月)は休館

会場●2階ギャラリー

無料

主催●北島町商工会(☎088・698・2275)

■北島町に点在する様々なジャンルの商店12店舗の秘めた魅力を、県内在住のデザイナー、コピーライターが各々独自の視点と感性で、大判ポスター25枚に自由に表現。広告の枠を超えた見応えあるアートポスターとして展示します。

創世ホール名画観賞会 24

「ベトナムの風に吹かれて」

2017年1月21日(土) 2回上映

①10時半～ ②14時～

会場●3階多目的ホール

入場料●大学生・一般/前売1000円(当日1300円)、小・中・高、シニア(60歳以上)の方は当日のみ1000円

作品●「ベトナムの風に吹かれて」(2015年、日本・ベトナム 114分) 出演=松坂慶子、草村礼子、チャン・ニュオン、柄本明、奥田瑛二ほか 監督=大森一樹 脚本=大森一樹・北里宇一郎 原作=小松みゆき

主催●創世ホール名画鑑賞会実行委員会(☎088・698・1100)

■ベトナム・ハノイで日本語教師として働くみさおの元に父の訃報が飛び込んできた。故郷・新潟で目のあたりにしたのは、認知症を煩い、父の死さえ理解していない母シズエの姿。みさおは、兄たちの反対を押し切り、ベトナムに母を連れてゆく決意をする■雪降りしきる越後から、熱気あふれるベトナムへ。人生の冒険はつづく■夢を追い、挫折を知った若かりしころ。喜びも悲しみも受け入れて今がある……。そんな人生の素晴らしさを歌い上げる感動作!



特報! 四方田犬彦◎講演会決定

白土三平の作品世界

漫画家生活60年を祝福する

2017年2月12日(日) 14時半～(開場14時)

会場●3階多目的ホール 入場無料

講師●四方田犬彦(映画史・比較文学研究家。詩人。エッセイスト 神奈川県横浜市在住 63歳)

主催●北島町立図書館・創世ホール(☎088・698・1100)

特別協賛●榊摩書房、榊青林工藝舎

■恒例の創世ホール講演会に、ついに四方田犬彦氏が登場。2017年に漫画家生活60周年を迎える孤高の漫画家・白土三平の作品世界に迫ります。この時期、この種の講演会が実現できるのは日本で唯一北島町創世ホールのみです。圧倒的興奮でご期待ください! 詳細次号。



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

企画広報担当者目録●小西昌幸

【2016年10月29日(土)】■沢田研ニコンサート(高知)に妻と出かけた。ジュリーは、いつだってカッコイイ。

【11月2日(水)】■元セタタのハンズ・アラキ氏が徳島市のシーズ・ホールで演奏するので、出かけた。

【11月4日(金)】■11時、四国大学吹奏学部による「子育て支援ファミリー・コンサート」。午後、東京の牧弘子さん(メディア・ワン)来館。

【11月7日(月)】■午後、FMびざん。ハラニシさんの番組で、北島トラディショナル・ナイトの宣伝をさせていただいた。

【11月9日(水)】■夜、徳島市の般若院でおおたか静流コンサート(太陽と緑の会主催)。最前列は高橋氏や、古本屋ソラリスさんなど知り合いがいっぱい。会場には、とくし丸の住友達也さんや、坂本膳写堂の坂本秀童さんご夫妻も。

【11月12日(土)】■妻と東京へ。主目的は国分寺の二男夫婦宅の訪問。私は、適宜自由時間をもらっている。

■12時30分、ディスクユニオン新宿本館地下にて地引雄一氏と合流。お声掛けしてあったJ0J0広重氏(ノイズバンド・非常階段リーダー)、美川俊治氏(非常階段、インキャパシタンツ)、石戸圭一氏(自主レーベル・いぬん堂代表)はそれぞれ所要のため不参加(広重氏は大阪滞在中、美川氏は自宅で協議、石戸氏は戸川純さんの新作レコーディングのミキシング作業)。月末に控えている地引さん関係の新宿ロフトでの大きなイベントのこと、3月の講演会に来て下さっていたSケン・スタジオの看板製作に関わったT山さん(元ラモーンズ・ファン・クラブ、現在徳島在住、県内大手プライダル会社関係者)のことや、白土三平作品の神話伝説シリーズの重要性などについて、喫茶店で話し込む。

■2人で模索舎に移動。お店の方から、トランス・レコード(故北村昌士氏が運営されていた自主レーベル)の目録を掲載したミニコミが出ていますよと教えられ、2人とも購入。私は、T山さんのおみやげも買った(T山さんは北村昌士氏と面識があり、初期『フルズ・メイト』の寄稿執筆者)。地引さんは根本敬氏のイラスト集も購入。私は、古い知人の平井玄さんが「図書新聞」に登場していたので購入。

■そのあと、歌舞伎町へ移動し、新宿ロフトへ。ここで、別れて私は森下に移動。古書ドリスへ。このお店は以前は北島町にあったのだが、東京に移転したのだ。上京のたびに立ち寄るようにしている。お店の入り口付近の百円均一段ボール箱に『SFマガジン』があったりするので、全く侮れない。種村季弘先生と松田修さんの対談が掲載された『現代詩手帖』があったので購入(300円)。

【11月13日(日)】■JR横須賀線保土ヶ谷駅へ。四方田犬彦さんと待ち合わせ。来年2月12日に創世ホールで開催する四方田さんの講演会「白土三平の作品世界～漫画家生活60年を祝福する」についての打ち合わせをした。歴代の創世ホール講演会講師の顔ぶれをみると、いつの日か四方田さんはその系譜に連なるべき存在であった。そのことは歴然としている。感無量のまま、1時間の打ち合わせを

終えた。今詳しくこの日の会見の内容を書くことは控えるが、白土作品『忍法秘話』の「梟鯨漢(いしみつ)」第1話ラストで、藤原千万(ふじわらのちかた)が不敵な笑みを浮かべ誇り高く宣言するセリフ「ちまたには疫病がまんえんし、行き倒れが路上にあふれ、百姓はやせた土地にしがみつき、むちの下にあえいでいる。しかるに貴族どもは、なすこともなく美食によい歌などにうつつをぬかしている。このくさりきった世に一風ふかせてやるか」にも通じる熱い心意気を、私たちが確認しあったことは記しておこう。その日その時、保土ヶ谷駅上空に不敵な高笑いが響いたとしても、必ずしも私はそれを空耳として一蹴したり否定したりするものではない。

■東京駅へ移動。東京ステーション・ギャラリーの学芸員N相氏への届け物を持参したので、立ち寄った。あいにく氏はお休みだったので、別の学芸員の方にことづけた。数か月前、職場に東京ステーション・ギャラリーのN相氏から電話があった。要件は次の通り(大意)。《特別展の企画でパロディをテーマにしたものを考えている。漫画の分野では長谷邦夫さんと、氏が編集集に関与した『マンガNo.1』は外せないで、連絡を取ろうとしたが、あいにくご病気で施設に入っておられる。息子さんとコンタクトが取れたのだが、「創世ホールの小西さんに聞くように」と言われたので、電話をかけた。長谷先生のインタビューを掲載した「創世ホール通信」を送っていただきたいのですが、在庫はございますか。》そのお尋ねに対して私は、長谷先生のインタビューは北島町のホームページで読めること、出典さえ明記していただければそこから自由に引用していただいてもかまわないこと、長谷先生のご容態が心配ですと気がかかっていること、などをお伝えしたのだった。今回、やっと東京訪問の機会を得たので、現物のコピーをお届けしようと考え、やっと実現できたのだった。東京ステーション・ギャラリーでは、次の週から高倉健展が開かれることになっていたのだから、そのチラシを預かって北島町立図書館でも宣伝協力する旨約束した。

■中野ブロードウェイ3階のタコシェへ。入口の廉価本コーナーに、現代教養文庫の牧逸馬『浴槽の花嫁 世界怪奇実話I』『親分お眠り 世界怪奇実話IV』が帯付きで各200円だったので即購入。

■4階の古書店《まんだらけ記憶》へ。ここの廊下の廉価本コーナーがいつも渋いのだ。『面白半分』や『話の特集』が100円で買えたりする。対談などで佐々木守さんが登場している号なら、必ずゲットしなくてはならない。この日は部厚い『話の特集の特集』を発見。

【11月14日(月)】■10時過ぎ、小田急線代々木八幡駅で下車し、株式会社メディア・ワンへ。同社は、創世ホール2階ハイビジョン・シアターで9月に上映会をした「水と風と生きもの」の映像製作会社。小松島市出身の同社プロデューサー・牧弘子さんにとってもお世話になったので、表敬訪問したのである。そして、同社取締役相談役で「水と風と生きもの」の監督・藤原道夫さんは、実は紀田順一郎さんとも一緒に仕事しておられるのだ。文化活動を続けていると、どんどんつながってくる感覚を味わいことがよくあるが、「水と風と生きもの」上映会もそういうつながりが続出した催しだった。代々木上原駅近くの喫茶店で、藤原監督、牧プロデューサー、小西の3人で食事。私がオムライス好きということでお店を探して下さったのだった。藤原監督は紀田さんとお仕事をされたので、『広文庫』の物集(もずめ)親子の話などをしてもすぐ通じる。い

くらでも話したりないくらいの楽しいひと時を過ごすことができたのだった。

■夕方の飛行機で徳島に帰還。

【11月17日(木)】■徳島市川内町の故山下博之先生(海野十三の会会長)宅へ。創元推理文庫の海野十三『深夜の市長』を謹んでお届けした。同書解説末尾に、山下会長ご逝去に触れ丁寧な追悼の言葉が記されているので、お仏壇にお供えくださいと奥様をお願いした。

【11月18日(金)】■カメラマンの勇崎哲史さん(伊福部昭さんの甥)が沖縄から徳島に来られたので、夕食会に出席。勇崎さんは、創世ホールのよき理解者で大切な知人だ。3か月程前、勇崎さんからご連絡をいただき、ご自身の写真講座の受講生の人たちをつれて徳島での撮影ツアーを準備中であること、そのときはぜひ会いましょう、ということになっていた。その後、日程も決まったので、ぜひ北島町で夕食会をしたいのでお店を予約してもらえないか、という相談を受けていた。職場の仲間と相談したり、色々思案した結果、役場近くのクイーン・アン・ヒルというイタリア料理のお店を予約したのだった。このお店は、北島町に館野泉さんが来られた時打ち上げをしている由緒あるレストランなのだ。勇崎さんたち御一行は約20名。小西との友情から、わざわざ北島町で食事をして町にお金を落とすとしていってくださったのである。徳島訪問の端緒となった冊子「あおあお」の関係者も同席され、興味深いお話を伺った。

【11月19日(土)】■沖縄から約20名が写真撮影ツアーに来るということはやはり大きな話題なので、徳島新聞社地方部デスクの友人・S口記者に連絡。この日夕方、協町のうだつの町並み撮影時に支局記者が取材することになった。

■マスカーズ・コンサート当日プログラムの挟み込み作業を、延々と行なう。

【11月20日(日)】■「徳島新聞」朝刊に「第20回北島トラディショナル・ナイト」の記事が大きく掲載された。その向かい側の面に勇崎さんたちの記事が掲載。何となくめでたい気がする。

■クイーン・アン・ヒルから電話。新聞記事を見た、宣伝協力したいとの非常にありがたいお申し出をいただく。すぐ、チラシとポスターをお届けした。

【11月21日(月)】■16時、FMびざん。12月にFMびざんで行なう20周年記念特別番組のパイロット版製作のため、数人が集まって打ち合わせと録音。私は、ビー・バップ・デラックス「シスター・シーガル」をかけてもらった。本番は、1時間を一人で担当するのである。色々難しい。

【11月22日(火)】■19時から「北島トラディショナル・ナイト20/ケルトの歌、やすらぎの調べ～マスカーズ・コンサート」。来場者120名。掛け値なしの素晴らしい音楽。

【11月27日(日)】■13時、ドキュメンタリー映画「さとにきたらええやん」上映会(徳島県立総合福祉センター)。催しの主催は、中古レコード店・ジャクソンズさんの奥さんたち有志だ。大阪釜ヶ崎の複雑な状況下にある子どもたちのための施設《こどもの里》に関するドキュメンタリー。立派な内容の作品だった。私なりに応援宣伝させていただいたが、どうもいくつかの場所で冷たい対応をされたようで残念の極み。人権問題に関わる公的機関や団体が、偏見を持っているとは笑止千万なり。(文責=小西昌幸 2016年12月09日脱稿)